

平成 30 年度 宗像市渡船事業運営審議会（第 2 回）

<会議録>

■日時・場所

○日時：平成 30 年 11 月 20 日 9：30～11：00

○場所：神湊港渡船ターミナル 2 階 会議室

■出席者

○審議会委員

委員出欠表（■出席 □欠席）		
■待鳥委員	■川上委員	■松元委員
■佐藤委員	■田中委員	■東委員

○事務局：大隈部長、秦交通対策課長、城戸渡船係長、松成主任主事

■議事

1. 開会

事務局：開会のあいさつ（省略）

2. 委嘱状の交付

- ・病気療養を理由に委員の辞退届が 6 月 26 日に提出。新しい委員の推薦を玄海地区コミュニティ運営協議会に依頼したところ、地島白浜区長の田中勇司氏の推薦あり。山崎委員から田中委員へ変更となるため、田中委員へ委嘱状の交付
- ・田中委員自己紹介

3. 諮問

- ・大隈部長より待鳥会長へ諮問書を読み上げて交付

諮問事項

- (1) 渡船の航路に関する事（航路、運行体制、運行時間、ダイヤ）
- (2) 渡船の建造に関する事（ニューじのしまのリプレイス）
- (3) 渡船の使用料に関する事（消費税率変更後の渡船使用料（運賃及び料金））

4. 議事

(1) 航路改善協議会の経過報告について

①第 1 回航路改善協議会報告（島民アンケート結果報告を含む）

事務局：資料1 対象地区の現況、資料3 航路に関する地区住民等の意向調査結果について説明。続いて資料2 航路改善に向けた検討の進め方について説明。

佐藤委員：平成27年2月の航路改善計画の内容は大島・地島住民のどの範囲まで周知されているのか

事務局：前任課長時代のもので、島民審議員、コミュニティなど関係者に周知したと聞いている。

佐藤委員：当時のコミュニティ役員会に出席して説明をしていないようだが。計画が住民に浸透するようにしていただければよかったのだが

事務局：今回のアンケート結果報告はコミュニティ役員会で報告させていただく。その場で3年前の計画について私から説明します。前回計画も踏まえて今後の航路改善をどうしていくのか、これからいろいろと伺いながら決めていきたい。また、地島についてもこういった場をセッティングしていただき、泊地区白浜地区それぞれを伺い経緯説明したい。

②第2回航路改善協議会報告

事務局：資料1 地島航路の航路診断結果を説明、資料2 地島航路の経営診断結果について説明、資料3 航路再編・船舶リプレイスの経営面への影響の検討（事業収支シュミレーション）について説明。

待鳥会長：ここで、ちょっと確認させていただきたいが、航路改善協議会は、当初はニューじのしまのリプレイスを目的に設置されたが、航路改善協議会が2回開催される中で、ニューじのしまのリプレイスだけの検討にとどまらず、大島航路も含めた市営渡船全体の航路改善として捉えないといけないということで、しおかぜのリプレイスまで視野に入れた検討を行うことになったということでしょうか。そして、3つのシュミレーションパターンが提示されて、その中からどれを選択するかについては、次回の第3回航路改善協議会への継続協議となったということでもよろしいでしょうか。

事務局：そのとおりです。第1回目の航路改善協議の中で、地島航路のニューじのしまのリプレイスだけを考えるのであれば、船の小型化は避けられない。また、フェリーおおしまの新造を決めた平成26年度航路改善協議会から大島航路と地島航路の航路再編が課題とされていることから、宗像市営渡船全体の航路改善を考えるにあたっては、まずは航路再編を行ったうえで、再編後の航路に見合った規模の船舶を新造するべきではないか。というご意見がありました。将来20年間にわたる事業を考えた場合、避けて通れないご意見として考慮した結果、航路再編まで含め、先ほど説明しました3つのケースに行きつきました。

待鳥会長：わかりました。それでは、議題（1）航路改善協議会の経過報告について、ご質問があればお願いします。ご意見については、次の議題（2）の①航路改善と新船の建造のなかで伺います。

佐藤委員：地島航路の経営診断のところ、営業費用の縮減の具体的内容は。

事務局：事務職員の人件費が多くを占める店費の減少が大きい。行政のアクションプランに基づく人件費節減を行った。

東委員：アンケート調査で、大島・地島で差異がある。大島分には改善要望項目がないのはなぜか。

事務局：大島については3年前にアンケートで伺ったので、今回は省略した。

松元委員：大島航路と地島航路を統合して見直すと冒頭にあったが、アンケート結果は各航路とも独立性を求める意見が多い。島民が思う統合することによるデメリットとはなにか。

田中委員：大島の方は時間的に長く船に乗らなくてはならないということが1点。

松元委員：どのくらい長くなるのか

事務局：提示しているダイヤ案でいえば土日祝のみ20分長くなる。ただし、フェリーは神湊、大島を直行するのでロスはない。

待鳥会長：方向性は確認したということによろしいか。

委員一同：異議なし

待鳥会長：ありがとうございます。それでは、次の議題に参ります。

(2) 今後の審議内容とスケジュールについて

①航路改善と新船の建造

待鳥会長：議題(2) 今後の審議内容とスケジュールについて、①航路改善と新船の建造とありますが、事務局から説明をお願いします。

事務局：議題(2) 今後の審議内容とスケジュールについては、事務局の秦から説明させていただきます。

まず、①航路改善と新船の建造についてですが、先ほど経過報告させていただきました通り、航路改善協議会では次回への継続協議となって結論待ちとなっています。今後の予定としましては、12月25日に開催予定の第3回航路改善協議会の結論を受けて、本審議会でも航路再編と新船建造の2点について、審議していただく予定と考えています。この2つの課題については、たいへん重たい課題であると事務局も認識しておりますし、航路改善協議会においても、航路を再編する場合は、平成33年度実施で、新船建造はその後というシュミレーションになっていますので、本審議会としても十分に審議をしていただいた上で、平成31年度に答申を出していただくスケジュールになるのではないかと考えています。こうした事務局の考えについて、委員のご意見をお聞かせいただきたいと思います。また、航路改善協議会の内容や航路再編案としての新ダイヤ案についても、現時点での審議委員のご意見等をお聞かせ願いたいと思っています。

待鳥会長：今後の審議内容は、航路改善と新船の建造をセットで審議するということですね。確認ですが、航路改善と航路再編は同じ意味合いと捉えてよろしいですか？また、スケジュール的には、来年度まで十分に審議をして答申を出すということによろしいですか？

事務局：航路改善と航路再編は同義ととらえていただいて構いません。本日の資料として、新ダイヤ案を配布しております。これは、あくまでも現時点でのたたき台の案ですが、この案をベースに航路を再編し、市営渡船航路の収支を改善していくという内容でございます。また、スケジュール的には、拙速に答申を求めるものではございませんが、答申を受けてからの、市の方針決定、予算や議会、運輸局への申請・認可という段取りを考えますと、平成31年の秋頃までには答申を頂きたいと思っております。

待鳥会長：今の事務局の説明について、何か質問等ありますか。

佐藤委員：大島は世界遺産観光客が増えている。三角航路にすれば、地島にこの客が回遊し、地島振興につながるのではないかと。大島住民の利便性の観点からは相いれないところではあるが。三角航路を策定した時のシュミレーションはされたのか。

事務局：再編を考えるにあたって地島の振興は念頭に置いている。大島観光客から地島にも行ってみたいとの声も一定量ある。V字航路では手間がかかるが、統合すれば気軽に足を運んでもらえる。新しい需要ができるのではないかとと思われる。シュミレーションはケース1～3について航路改善協議会で検討、次回協議会で2パターン増やして5パターンで検討する。

事務局（城戸）：1点補足する。佐藤委員からご意見ありましたので、三角航路まではシュミレーションしていますが、地島経由での往復案は今の案にないので、1つ追加して協議会に出したい

事務局（秦）：みなさまのご意見を伺いながらより良い案を考察していきたい。

待鳥会長：たくさんのケースを模索し、協議会で議論していただき審議会に報告していただきたい。

東委員：地島航路診断で、乗組員と職員数の計算は合うか

事務局：交代シフトなので、職員は全体数、乗組員は乗務している人数となっています。

待鳥会長：ここで委員の皆さんから、現時点でのご意見を伺いたいと思っております。

まずは、航路改善協議会にも参加されている九州運輸局の川上委員にお尋ねしたいと思っておりますが如何でしょうか。

川上委員：地島の利用実績を見ると非常に厳しい状況。船舶のリプレイスをする場合は、現在の55tクラスではなく小型化しないと認められないと思われる。しかし、航路再編するとなれば大島航路の実績も勘案し、現行級の船舶規模が認められると思われるので、航路再編を考慮することが必要と考える。

待鳥会長：ありがとうございました。

次に、田中委員も、航路改善協議会に出席されていますので、島民としてのお考えも含めて田中委員のご意見をお願いします。

田中委員：収支を見れば何も言えない状態。航路再編はやむを得ないのかなと思う。しかし、島民には独立航路要望が根強い。修繕費は高額となっているが、新船なら償却が発生する問題もある。大規模改修についても協議会で提案していきたい。

待鳥会長：ありがとうございました。

次に、市民代表として、また島民ではない客観的な立場から、東委員は如何でしょうか。

東委員：補助が前提なら国の要望を聞きながら進めなくてはならないと思う。大事なポイントは島民の感情。お互いに納得いく形になれば非常に良いのではないかと感じています。

待鳥会長：ありがとうございました。

次に、財務専門家委員の松元委員に伺います。先ほど、地島航路の経営診断なども報告されましたが、松元委員のご意見は如何でしょうか。

松元委員：年間 9 千万の赤字は企業ならば倒産している状態。やはり経費の削減、地域の活性化による収益向上が必要。経費削減なら船舶小型化、航路効率化。知恵を出し合ってやっていくのが大事だと思う。

待鳥会長：ありがとうございました。最後になりましたが、大島代表委員の佐藤委員のご意見は如何でしょうか。

佐藤委員：地島と大島と共存共栄していきたい。大島の観光客の流れを地島へ導き一体的に活性化していきたい。

待鳥会長：各委員の現時点での意見を伺いましたが、事務局如何でしょうか？

事務局：皆様ご意見ありがとうございました。

まだ、航路改善協議会の結論が出ていない状況で、ご意見と言われても皆様戸惑われたと思いますが、現時点でのご意見として今、出されましたご意見を、航路改善協議会でも参考として伝えたいと思います。

②消費税率改定に伴う渡船の使用料

待鳥会長：それでは、議題（2）の①については終わりました、②消費税率改定に伴う渡船の使用料に参りたいと思います。

この議題について、事前配布資料は有りませんでした。事務局から説明をお願いします。

事務局：来年、平成 31 年 10 月 1 日から消費税率を 10% に増率する税率改定が予定されていますので、市営渡船の運賃・使用料についても見直しが必要と考えております。

市営渡船の運賃・使用料については、宗像市渡船条例で規定されており、その見直しにあたっては、条例を改正して市議会の承認が必要となります。市では、消費税率改定に関係する諸々の条例改正を、来年 6 月議会に提案する方針ですが、市営渡船の運賃・使用料を改定する際には、事前に渡船事業運営審議会に諮問して、その答申を受けて、市が条例改正案を作成するという手順になっています。

運賃・使用料の改定案につきましては、現在、事務局で考案中でございまして、来年 1 月に開催を予定しています次回の審議会にて提案させていただき、来年 6 月議会に間に合うように審議していただきたいと思います。

本日は、現時点での事務局の考え方について説明させていただき、これに対する委員皆様のご意見があれば、次回提案する事務局案の参考にさせていただきたいと考えています。

待鳥会長：事務局案は次回審議会にて提案するが、事務局案を作るうえで、現時点での審議

委員の意見を参考までに伺いたいということですね。

事務局：はい。そのとおりです。

待鳥会長：それでは、現時点での事務局の方針についてお聞かせください。

事務局：運賃・使用料の改定方針について概要を説明

前提として運輸局の認可運賃になるので国の取り扱い通知に従う。現時点では国の通知が出ていないが、考え方としては2%の増率分だけを改訂し、その他の理由による値上げいわゆる便乗値上げはしない方針。

待鳥会長：ただいまの事務局からの説明ですが、皆様ご理解いただけましたでしょうか。

質問があればどうぞお願いします。

松元委員：事務局案が一番良いと思います。

待鳥会長：端数はどうなっているのでしょうか。

事務局：議会に対しても上程しなくてはならないので、説明できる形にしたい。使用料をいただく市の他部署とも調整して決めていきたい。

川上委員：端数処理については、国の方針がありますので、参考にしてください。

待鳥会長：大島から地島経由で神湊となると、運賃はどうなりますか。

事務局：運輸局に事前に確認しましたところ、現行と変えなくてよいのではないかとのことでした。

待鳥会長：では、ほかに質問、意見も無いようですし、消費税率改定に伴う運賃・使用料の見直しについては、次回改めて事務局から提案があるということですから、本日予定された議事は全て終了したと思いますが、事務局よろしいでしょうか？


5. 閉会

待鳥会長：閉会のあいさつ

事務局：それでは、本日の渡船事業運営審議会を閉会します。なお、次回の審議会は1月中の開催を予定しています。日程については、あらためて各委員にスケジュールを伺ってから決めたいと思っていますのでよろしくお願いします。では、委員の皆様、ありがとうございました。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成30年12月19日

議事録署名人 佐藤隆数 

議事録署名人 田中勇司 